



公益財団法人 日本スポーツ協会公認
茨城県スポーツ指導者協議会

会 報

第 87 号

令和 5 年 9 月 15 日

発行人

茨城県スポーツ指導者協議会

会 長 鈴 木 孝 子

事務局 〒 306-0204

古河市下大野 1463-4

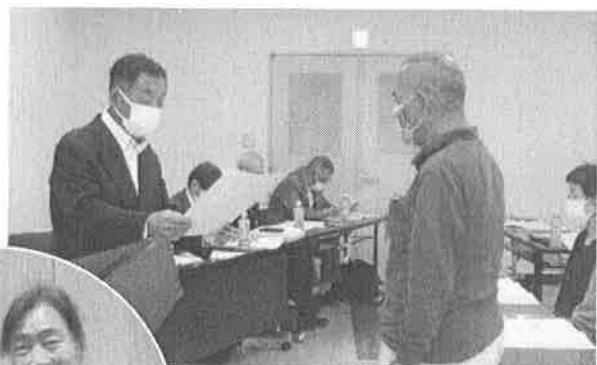
事務局長 鈴 木 義 夫

TEL・FAX 0280-92-4555

会員数 1,760 名 (R5. 9. 15 現在)



2023 年 7 月に開館した水戸市市民会館にて、全県研修会を実施



令和 5 年度総会にて、照沼前会長よりスポーツ指導者功労賞を授与



令和 5 年より、鈴木新会長が誕生しました。受賞者の坂本さんと撮影



中央地区研修会を那珂市総合センターらばーにて実施 (R 5. 9. 3)

《講演Ⅰ》 地域スポーツチームが
取り組む地域課題
講師：山根 将大氏

《講演Ⅱ》 アクティブチャイルドプログラムの
紹介と県内の取り組みレポート
講師：峰 淳一氏

公益財団法人 日本スポーツ協会公認
スポーツ指導者のために

資質向上と
活動の推進を

連帯感を深め
組織的活動を

目 次

会長あいさつ・理事長あいさつ	2
専務理事あいさつ・指導主事あいさつ	3
令和 4 年度収支決算報告書・令和 5 年度収支予算書	4
令和 5 年度本協議会事業計画書	5
茨城県スポーツ指導者研修会講演内容紹介	6～7
茨城県スポーツ指導者協議会功労賞受賞者あいさつ	8～9
(公財)茨城県スポーツ協会加盟競技団体紹介	9
みんなの広場	9
協議会事務局便り	10

会長あいさつ



茨城県スポーツ指導者協議会
会長
鈴木孝子

このたび茨城県スポーツ指導者協議会の会長の任を仰せつかりました鈴木孝子です。本協議会役員として働かせていただくようになってから40余年が過ぎようとしています。これまでの歴代の会長のみなさまのご功績を想い起こすにつれ感謝の念が絶えません。

本協議会は昭和54(1979)年に全国47都道府県に設立されました。主に義務研修の運営を行って参りましたが、本県では県北、中央、水戸、鹿行、県西、県南の6支部において、さまざまな活動を展開しています。他県では実質的な活動を休止しているところもある中で、このように種目の枠を超えて皆様が交流を続けている団体は、他に例をみないでしょう。歴代の役員をはじめ多くの皆様のご協力とご支援によって今日の姿があることに、あらためて感謝申し上げます。

こうして時代の流れを感じつつ、初の女性会長として微力ながら精一杯この大役を務めさせていただきます。ただこうと決意しております。社

会情勢の著しい変化に伴いスポーツ界にも新しい風が吹いています。女性役員の数を増やし、これまで以上にしなやかに楽しく公認スポーツ指導者の輪を広げていきたいと思っています。

さて学校では今、部活動の地域移行が図られようとしています。教員を中心としたスポーツ活動は、学校内だけでなく、地域全体で支え合うことが求められています。老若男女を問わず、全ての人が仲良く、明るく、笑顔で、スポーツしながらコミュニケーションを図ることが大切です。是非一緒に楽しく活動しましょう。

本協議会は、現在、順調にその会員数を増やしながら活動を重ねています。しかし、全く問題がないわけではありません。新たに役員となつて下さる方がなかなか見つからないのです。経済格差が広がり、無償のボランティア活動にも限界があるのかも知れません。会員としてのメリットが見えにくいことも原因かも知れません。一緒に楽しく働いて下さる方が十分にそのメリットを感じていただけるようにしなければなりません。どうか、会員の皆様にとって本協議会がさらに有益なものになるようお知らせ下さい。どうぞよろしくお願いいたします。

理事長あいさつ



茨城県スポーツ指導者協議会
理事長
加藤敏弘

このたび理事長に就任いたしました加藤敏弘と申します。現在、茨城大学人文社会科学部教授としてスポーツ社会論、チームワーク・コーチング論等の教鞭を執っています。茨城大学バスケットボール部のヘッドコーチとして日々の練習、合宿、大会へ参加しています。そのため土日祭日はほとんど埋まっております。みなさんがそうであるように家族の協力なくして、今日の活動は成立しません。

大学1年生の春休みに友人と一緒にUCLAに出向いて一般学生や街の人たちとピックアップゲームを行いました。それが私のスポーツ人生の大きな転機となりました。その当時、厳しい上下関係に悩んでいましたが、子どもからお年寄りまでその場で寄せ集まつた即席チームでバスケットボールを楽しむ姿は、それまでの私のスポーツ観を一変させました。なぜ、同じスポーツなのに国によってこんなにも楽しみ方が異なるのか不思議でなりませんでした。

35歳の時に在外研究員としてU

CCLAに赴任し、シーズンを通してバスケットボールチームの活動を調査しました。選手の個性を尊重しながら、一定の規律を保ちつつチームを作り上げていくコーチングの醍醐味を味わいました。次々と素晴らしいNBA選手が誕生する秘訣を垣間見た気がしました。

ところが、ブラジルやヨーロッパからも次々と優秀なNBA選手が誕生していることを知り、その秘密を探りたくまりました。そこで、ブラジル、オーストラリア、リトアニア、セルビア、スペインへ渡航し、主に14歳以下の指導の様子を調査しました。どの国でも本当に楽しく子どもたちの発育発達段階に応じた技術指導や戦術理解を促す活動が展開されていました。

2016年度から3年間日本バスケットボール協会指導者養成委員会の委員長としてS級を頂点とする指導者ライセンスの新たな制度を確立させてきました。こうした経験を踏まえ、今後は種目の枠を超えた指導者同士の交流を促進し、地域に根ざしたスポーツ活動の実現に微力ながら尽力させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(公財)茨城県スポーツ協会

あいさつ

茨城県スポーツ協会
専務理事

藤田 知 巳

日頃より本協会の事業にご理解ご協力を賜りありがとうございます。

本協会は、「生涯スポーツ活動の推進」・「競技力の向上」・「指定管理施設の円滑な管理運営」の三つを柱に、様々な県内スポーツ活動の統括団体として事業を運営いたしております。誰もが生涯スポーツに親しめる機会と安全な環境を提供し、プレーヤーに寄り添える指導者を育成し、競技力の向上を図っていくことを目指すものです。

さて、最近の社会の変化に伴い、スポーツを取り巻く環境も大きく変わってきております。少子化・基礎スポーツ人口の減少、スポーツ現場での反倫理的行為の発覚等、様々な問題が発生しております。それらの社会の動向に対応するため、スポーツ指導者に求められる新しい役割として、時代と共に指導のあり方も変化していることを認識して指導にあたっているだけでなく、大切と考えております。

す。

また、現在、中学校の部活動をはじめ、ジュニアスポーツを取り巻く環境は様々な課題を抱えています。本協会におきましても、国の部活動改革に対応するため、茨城県教育庁学校教育部保健体育課と連携し、部活動の地域移行に取り組んでおります。子どもたちが、スポーツを純粋に楽しむために、課題解決に取り組んで参りたいと思います。

そもそも日本スポーツ協会は、スポーツを「自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化である」と規定しております。

その目指すところは、誰もがスポーツを豊かに享受する環境を創出し、多様化を促進するために連携協働していくことであります。スポーツが、あらゆる人に一切の差別なく享受される社会でなければならぬということです。

これからの時代、スポーツの価値を、守り育てていく要となるのは、やはり指導者の力に期するところが大いではないでしょうか。プレーヤーを理解し、プレーヤーを取り巻く環境に配慮し、競技力の向上を図るためには、常に指導者も学び続け、自らを成長させなければなりません。そしてスポーツの価値を損なうような、暴力行為やパワーハラスメントなど、セクシャルハラスメントなどの行為を根絶していかなければなら

りません。

本協会としましては、競技スポーツ、生涯スポーツ、インクルーシブスポーツ等、多岐にわたる分野で振興を図り、地域の活性化に寄与していくことを目指していく所存です。

茨城県スポーツ指導者協議会の皆様には、柔軟な考え方をもち組織・指導者であり続け、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

茨城県スポーツ協会
指導主事

柳田 剛 志

この度、スポーツ指導者協議会の担当になりました。

公認スポーツ指導者とは、スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメント等あらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会価値を高めることに貢献できる者であると私は考えます。

私も二年前まで指導者として生徒・選手と共に切磋琢磨し、汗を流して参りました。その中で、数多くの指導者との出会いがあり、様々な知識を吸収し、数多くの指

導法を目のあたりにし、常に刺激を受けながら成長することができました。

良い指導者になるには、常に学び続ける、「学び続ける」成長し続けることが必須だと私は考えて指導に取り組んで参りました。

指導をするには、自信と覚悟が必要だと思えます。しかし、自信が過信になつてはいけません。技術指導だけみても、経験は重要ですが、自分の経験だけを信じて指導をしてしまつてはその指導が選手の成長に繋がるとは限りません。

一人一人の選手に合った指導をするために、幅広い視野、思考をもつて選手に関わり続けることが大切であると思えます。また、指導者自身が指導方法をアップグレードしていくことが重要だと考えています。

成長し続けるために、どんどん知識を吸収する機会になるのが、多くの人との出会いや更新研修会であると思えます。

茨城県スポーツ指導者協議会には、学び続け、成長し続ける指導者の育成、変革期にある日本のスポーツ文化に対応できる指導者の育成にご尽力していただき、より良い組織として、茨城県の指導者・選手の育成に努めていただけることをお願いするとともに、自身も成長するために共に学び続けていきたいと思えます。

令和 4 年度収支決算報告書 (令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日)

収入の部

(単位: 円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1. 会 費	1,560,000	2,498,550	938,550	630名分
2. 抽 助 金	200,000	200,000	0	茨城県スポーツ協会 (令和 4 年度)
3. 繰 越 金	390,616	390,606	0	前年度繰越金 (令和 3 年度)
4. 雑 収 入	29,384	30,391	1,007	利息・返金・その他等
合 計	2,180,000	3,119,557	939,557	

支出の部

(単位: 円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1. 会 議 費	170,000	175,091	5,091	
総 務 課 費	40,000	52,725	12,725	切手・事務品・飲料・会場使用・表彰・監査等
常 任 理 事 会 費	30,000	17,185	△ 12,815	切手・事務品・飲料・会場使用等
理 事 会 費	20,000	22,713	2,713	切手・事務品・飲料・会場使用等
総 務 委 員 会 費	10,000	8,297	△ 1,703	切手・事務品・飲料・会場使用・手当等
研 修 委 員 会 費	40,000	46,180	6,180	切手・事務品・飲料・会場使用・手当等
広 報 委 員 会 費	30,000	27,911	△ 2,009	切手・事務品・飲料・会場使用・手当・版下等
2. 事 務 費	680,000	793,053	113,053	
総 務 費	130,000	233,500	83,500	各種会議等 (総会・常任理事会・理事会は除く)
役 務 費	90,000	90,000	0	会長・事務局長・事務局員・会計
消 耗 品 費	150,000	180,769	30,769	事務用品・コピー紙・ラベル・インク・その他等
食 料 費	20,000	16,402	△ 3,598	事務局・会計監査等
印 刷 コ ピ ー 費	70,000	69,285	△ 715	封筒印刷・カード印刷・会議資料コピー等
通 信 費	150,000	188,800	38,800	切手・ゆうパック
備 品 費	50,000	14,297	△ 35,703	ソフト・メモリー・付属品・ゴム印等
3. 事 業 費	570,000	569,477	△ 523	
会 報 印 刷 費	220,000	219,400	△ 600	会報第 85 号・第 86 号印刷
会 報 発 送 費	260,000	280,560	20,560	会報第 85 号・第 86 号郵送
研 修 会 費	60,000	19,517	△ 40,483	研修会 (全県研修・地区研修) 諸経費
派 遣 費	30,000	50,000	20,000	研修会派遣・関プロ会議派遣・全国会議派遣
4. 支 部 活 動 費	464,480	386,060	△ 78,420	
県 北 活 動 費	96,600	88,500	△ 8,100	県北地区研修・支部会報
水 戸 活 動 費	70,000	30,000	△ 40,000	水戸地区研修・救命講習
中 央 活 動 費	92,160	81,340	△ 10,820	中央地区研修・救命講習・支部だより
鹿 行 活 動 費	74,120	62,680	△ 11,460	講演研修・救命講習・鹿行だより
県 南 活 動 費	91,600	93,560	1,960	県南地区研修・県南だより
県 西 活 動 費	40,000	30,000	△ 10,000	救命講習→中止
5. 負 担 金	10,000	10,000	0	関東ブロックスポーツ指導者協議会
6. 雑 費	140,000	165,014	25,014	手数料・発送作業・その他等
7. 予 備 費	145,520	275,863	130,343	関プロ宿泊研修会経費・研修会経費
合 計	2,180,000	2,374,558	△ 194,558	

収入合計 3,119,557 円
 支出合計 2,374,558 円
 差引残金 744,999 円

なお、差引き残金は令和 5 年度本協議会収支予算書に繰り越しいたします。

令和 5 年度 収支予算書 (令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日)

収入の部

(単位: 円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1. 会 費	1,640,000	1,560,000	80,000	410 名分
2. 抽 助 金	200,000	200,000	0	茨城県スポーツ協会 (令和 5 年度)
3. 繰 越 金	744,999	390,616	354,383	前年度繰越金 (令和 4 年度)
4. 雑 収 入	15,001	29,384	△ 14,383	利息・返金・その他等
合 計	2,600,000	2,180,000	420,000	

支出の部

(単位: 円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1. 会 議 費	250,000	170,000	80,000	
総 務 課 費	60,000	40,000	20,000	切手・事務品・飲料・会場使用・表彰・監査等
常 任 理 事 会 費	40,000	30,000	10,000	切手・事務品・飲料・会場使用他
理 事 会 費	30,000	20,000	10,000	切手・事務品・飲料・会場使用他
総 務 委 員 会 費	20,000	10,000	10,000	切手・事務品・飲料・会場使用・手当他
研 修 委 員 会 費	60,000	40,000	20,000	切手・事務品・飲料・会場使用・手当他
広 報 委 員 会 費	40,000	30,000	10,000	切手・事務品・飲料・手当・会場使用料・版下他
2. 事 務 費	800,000	680,000	120,000	
総 務 費	180,000	150,000	30,000	各種会議等 (総会・常任理事会・理事会は除く)
役 務 費	100,000	90,000	10,000	会長・事務局長・会計・事務局員
消 耗 品 費	180,000	150,000	30,000	コピー紙・ラベル・インク・事務用品等
食 料 費	30,000	20,000	10,000	事務局・会計監査
印 刷 コ ピ ー 費	80,000	70,000	10,000	封筒印刷・カード印刷・会議資料コピー他
通 信 費	180,000	150,000	30,000	切手・ゆうパック
備 品 費	50,000	50,000	0	ソフト・メモリー・付属品・ゴム印・ICレコーダー他
3. 事 業 費	740,000	570,000	170,000	
会 報 印 刷 費	230,000	220,000	10,000	会報第 87 号・第 88 号印刷
会 報 発 送 費	310,000	260,000	50,000	会報第 87 号・第 88 号郵送
研 修 会 費	140,000	60,000	80,000	全県研修会・地区研修会諸経費・研修会予備費
派 遣 費	60,000	30,000	30,000	研修会派遣・関東プロ会議派遣・全国会議派遣
4. 支 部 活 動 費	468,920	464,480	4,440	
県 北 活 動 費	67,000	96,600	△ 29,600	実務研修・支部会報 2 回
水 戸 活 動 費	57,080	70,000	△ 12,920	救命講習・支部便り 2 回
中 央 活 動 費	93,560	92,160	1,400	中央地区研修・救命講習・支部便り 2 回
鹿 行 活 動 費	105,400	74,120	31,280	鹿行地区研修・講演研修・救命講習・支部便り 2 回
県 南 活 動 費	65,200	91,600	△ 26,400	支部便り 2 回
県 西 活 動 費	80,680	40,000	40,680	県西地区研修・支部便り 2 回
5. 負 担 金	10,000	10,000	0	関東ブロックスポーツ指導者協議会
6. 雑 費	160,000	140,000	20,000	手数料等・発送作業等・その他
7. 予 備 費	171,080	145,520	25,560	
合 計	2,600,000	2,180,000	420,000	

収入合計 2,600,000 円
 支出合計 2,600,000 円
 差引残金 0 円

令和5年度 本協議会事業計画書

1、方 針

- 1) 地域住民のスポーツ活動のニーズに対応して、生涯にわたるスポーツ活動への協力と支援を通じてスポーツ指導者の社会的地位向上に努める。
- 2) 資格保有者相互の親睦と連携に努めて、指導者として資質や指導力の向上を図り、スポーツ活動の推進に努める。
- 3) 公認スポーツ指導者が、本協議会に会員入会（新規入会・会員更新）の促進を積極的に推進する。
- 4) 地域総合型スポーツ活動への参画に努める。

2、目 標

- 1) 本協議会の組織充実を図る。
①本協議会の組織体制を図り、本部事務局及び支部組織の充実に努める。
②市町村及び競技団体との連携・協調に努める。
③有資格者の会員入会（新規入会及び更新入会）の促進を積極的に推進する。
- 2) 更新研修会（全県研修・地区研修）を開催して、資質と指導力の向上を図る。
- 3) 普及広報活動を充実させて、交流と情報交換を図る。
- 4) 公益財団法人茨城県スポーツ協会及び市町村体育（スポーツ）協会事業への協力体制を充実させる。
- 5) 競技団体との連携強化を図る。
- 6) 関東ブロックスポーツ指導者協議会の情報交換と連携協力する。
- 7) 感染症対策ガイドラインを順守して研修会を実施する。

3、事 業

1) 令和5年度公益財団法人茨城県スポーツ協会事業協力

①令和5年度茨城県スポーツ指導者研修会・全県研修会

- | | |
|----------|-----------------------------|
| (1)期 日 | 令和5年8月6日（日） |
| | 午前9時30分受付・午前10時開会～午後2時35分閉会 |
| (2)会 場 | 水戸市・J Aグループ茨城教育センター・二階大会議室 |
| (3)参 加 料 | 会員1,000円・未会員3,000円 |
| (4)参加定員 | 100名予定 |
| (5)主 管 | 研修委員会 |
| (6)運営委員 | 若干名（本部役員・研修委員） |
| (7)県スポ協会 | 2名（水貝事業課長・柳田指導主事） |

②令和5年度茨城県スポーツ指導者研修会・中央地区研修会

- | | |
|----------|-----------------------------|
| (1)期 日 | 令和5年9月3日（日） |
| | 午前9時30分受付・午前10時開会～午後2時35分閉会 |
| (2)会 場 | 那珂市・総合センターらぽーる・多目的ホール |
| (3)参 加 料 | 会員1,000円・未会員3,000円 |
| (4)参加定員 | 150名予定 |
| (5)主 管 | 中央支部 |
| (6)運営委員 | 若干名（本部役員・中央支部役員） |
| (7)県スポ協会 | 2名（水貝事業課長・柳田指導主事） |

③令和5年度茨城県スポーツ指導者研修会・県西地区研修会

- | | |
|----------|-----------------------------|
| (1)期 日 | 令和5年11月2日（日） |
| | 午前9時30分受付・午前10時開会～午後2時35分閉会 |
| (2)会 場 | 下妻市・千代川公民館・1階ホール |
| (3)参 加 料 | 会員1,000円・未会員3,000円 |
| (4)参加定員 | 120名予定 |
| (5)主 管 | 県西支部 |
| (6)運営委員 | 若干名（本部役員・県西支部役員） |
| (7)県スポ協会 | 2名（水貝事業課長・柳田指導主事） |

④令和5年度茨城県スポーツ指導者研修会・鹿行地区研修会

- | | |
|----------|-----------------------------|
| (1)期 日 | 令和6年1月21日（日） |
| | 午後12時30分受付・午後1時開会～午後4時50分閉会 |
| (2)会 場 | 鉾田市・大洋公民館・大集会室 |
| (3)参 加 料 | 会員1,000円・未会員3,000円 |
| (4)参加定員 | 130名予定 |
| (5)主 管 | 鹿行支部 |
| (6)運営委員 | 若干名（本部役員・鹿行支部役員） |
| (7)県スポ協会 | 2名（水貝事業課長・柳田指導主事） |

2) 令和5年度本協議会会報発行

①会報第87号発行

- | | |
|----------|--------------------|
| (1)ページ数 | 10ページで2,000部発行予定 |
| (2)発行日 | 令和5年9月15日予定 |
| (3)配 付 先 | 6支部会員・県外会員及び新規入会会員 |

②会報第88号発行

- | | |
|----------|--------------------|
| (1)ページ数 | 10ページで2,000部発行予定 |
| (2)発行日 | 令和6年3月15日予定 |
| (3)配 付 先 | 6支部会員・県外会員及び新規入会会員 |

3) 令和5年度関東ブロックスポーツ指導者協議会協議会

①令和5年度関東ブロックスポーツ指導者協議会宿泊研修会

- | | |
|----------|---------------------|
| (1)期 日 | 未定 |
| (2)会 場 | 未定 |
| (3)参 加 者 | 若干名予定（関ブロ幹事・茨城県代表他） |

②令和5年度関東ブロックスポーツ指導者協議会役員会・会計監査・総会

- | | |
|----------|-------------------|
| (1)期 日 | 令和6年3月下旬予定 |
| (2)会 場 | 未定 |
| (3)出 席 者 | 2名予定（関ブロ幹事・茨城県代表） |

4) 令和5年度全国スポーツ指導者連絡会議

①令和5年度第1回全国スポーツ指導者連絡会議全体会及び分科会

- | | |
|----------|-----------------------------|
| (1)期 日 | 令和5年6月上旬予定 |
| (2)会 場 | 東京都・ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア予定 |
| (3)出 席 者 | 2名予定（関ブロ幹事・茨城県代表） |

②令和5年度第2回全国スポーツ指導者連絡会議全体会及び分科会

- | | |
|----------|-----------------------------|
| (1)期 日 | 令和5年12月上旬予定・午後1時開会～5時閉会予定 |
| (2)会 場 | 東京都・ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア予定 |
| (3)出 席 者 | 2名予定（関ブロ幹事・茨城県代表） |

③令和5年度公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰

- | | |
|----------|-----------------------------|
| (1)期 日 | 令和5年12月上旬予定 |
| (2)会 場 | 東京都・ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア予定 |
| (3)受 賞 者 | 若干名（本協議会推薦・競技団体推薦・市町村推薦） |

④令和5年度公認スポーツ指導者全国研修会

- | | |
|----------|-----------------------------|
| (1)期 日 | 令和5年11月～12月上旬予定 |
| (2)会 場 | 東京都・ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア予定 |
| (3)出 席 者 | 若干名（参加希望者及び受賞者） |

5) 令和5年度公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰推薦者

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (1)県北支部・柴田 美知代様 | (4)鹿行支部・推薦者なし |
| (2)水戸支部・推薦者なし | (5)県南支部・大久保 進司様 |
| (3)中央支部・推薦者なし | (6)県西支部・推薦者なし |
| (7)常任理事会・推薦者なし | |

6) 令和5年度茨城県スポーツ指導者協議会表彰推薦者（功労賞）

- | | |
|----------------|-----------------|
| (1)県北支部・推薦者なし | (4)鹿行支部・推薦者なし |
| (2)水戸支部・推薦者なし | (5)県南支部・大久保 進司様 |
| (3)中央支部・阿部 総恵様 | (6)県西支部・山中 寛様 |
| (7)常任理事会・推薦者なし | |

7) 令和5年度本協議会各種会議等開催計画

- | | | |
|------|---------------------------|--------------|
| ①総 会 | 期 日 | 令和5年4月29日（土） |
| 会 場 | 笠間市・笠間友部公民館二階大会議室（定員100名） | |

②常任理事会

- | | |
|-----|--|
| 期 日 | 3回計画／年・令和5年10月14日（土）・令和6年2月10日（土）・令和6年3月23日（土）予定 |
| 会 場 | 笠間市・笠間友部公民館二階小会議室（定員60名）予定 |

③理 事 会

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 期 日 | 2回計画／年・令和5年4月15日（土）・令和6年3月2日（土）予定 |
| 会 場 | 笠間市・笠間友部公民館二階小会議室（定員60名）予定 |

④会計監査

- | | |
|-----|---------------------------|
| 期 日 | 令和6年4月6日（土）予定 |
| 会 場 | 笠間市・笠間友部公民館一階相談室（定員10名）予定 |

⑤専門委員会

- | | | |
|----------|---------------------------|------------------------------------|
| (1)総務委員会 | 期 日 | 2回計画／年・令和5年7月13日（木）・令和6年1月25日（木）予定 |
| 会 場 | 水戸市・茨城県水戸生涯学習センター分館内二階会議室 | |

(2)研修委員会

- | | |
|-----|---|
| 期 日 | 3回計画／年・令和5年5月24日（水）・令和5年7月26日（水）・令和5年8月23日（水）予定 |
| 会 場 | 水戸市・茨城県水戸生涯学習センター分館内二階会議室 |

(3)広報委員会

- | | |
|-----|----------------------------|
| 期 日 | 2回計画／年・令和5年8月中旬・令和6年2月下旬予定 |
| 会 場 | 笠間市・笠間友部公民館一階相談室（定員10名）予定 |

⑥事務局会議

- | | |
|-----|--|
| 期 日 | 3回計画／年・令和5年4月29日（土）・令和5年10月14日（土）・令和6年3月23日（土）予定 |
| 会 場 | 笠間市・笠間友部公民館二階小会議室（定員60名）予定 |

令和5年度 茨城県スポーツ指導者研修会 全県研修会 令和5年8月6日（日）於：水戸市民会館

《講演Ⅰ》「マインドセット・Z世代・DX」

講師 日本スポーツコーチング協会認定コーチ
茂木 ゆういち



今回の研修は、参加者が持つ持っている情報の共有と自分以外の指導者が目指している「指導者像」を知り、今後の指導の参考としてもらうための内容にしました。

Z世代とは？

令和5年現在、Z世代と言われる世代がいます。その特徴は何なのでしょう。Z世代の特徴を言語化して表現してください。指導の現場で、この世代の特徴を知ることが効果的な指導を行うために有効なことです。指導を行う選手に対して、指導する側の特徴をデフォルト（当然）として指導を行うことが効果的なのかどうかに思考を向けてほしいのです。

今回の研修では、指導者同士で「Z世代とはどんな特徴をもっていますか」という問いかけで話合ってもらいました。話合ふことで、自らの認識を深めてもらい、「何をどのような手法で指導を行うことが効果的なのだろう。」というに思考を巡らしてもらいました。Z世代は、デジタルネイティブな世代です。生まれた時からインターネット

トによる情報を享受することが可能です。その環境から、自らが興味を持てば、様々な情報を取得することが可能です。これがスポーツ指導に何をもたらすのでしょうか。今までの指導と何が異なるのでしょうか。参加者同士の話し合いから気づくことも多かったと思います。これを読んでいるあなたは如何でしょうか？

DXとは？

さて、ビジネスや個人の生活でもインターネットの情報は切り離せないのが現状です。私の感覚では九割以上がスマホ片手に、虚実混沌とした情報に触れています。この現状を踏まえ、スポーツはDX（デジタルトランスフォーメーション）を推し進めようとしています。時代の変化に合わせる政策です。DX



とITCの言葉の意味を区別することをこの研修で実施しました。DXとは、デジタルを使って、もののやり方やアプローチを変え、組織そのものも変えていくことです。これらに違和感はありません。しかし、デジタルネイティブなZ世代を対象として効果的に選手指導を実施するため、選手の効果的な成長を促すためには、今までのやり方を検証することは価値があることだと思ふのです。このことを指導者自らが考えて答えを出すために、話合ってもらいました。研修で話し合えなかったことがあります。選手指導にDXすることがもたらすメリット・デメリットです。指導法を変革するとすれば、メリット・デメリットが出てきます。これらの成長を促す指導をすることが指導者の役目と私は考えています。

マインドセットとは？

以上のことを踏まえ、指導者として選手を指導することに對して、どのような考え方をすることが有効なのでしょう。

これをマインドセットといいます。指導者がマインドセットとして、ある基準を設けるとしたら、どんな基準が有効なのでしょう。そして、五年後のあなたのために、何を、どのような方法で行動することが効果的でしょうか。これを話合っ



自分自身の指導法を見つけよう！

研修では、ひとつの答えを提示しません。指導者、指導される選手も千差万別です。ひとつの方法が常に正しいわけではありせん。指導法も千差万別です。あなた御自身の指導法を見つけたために、どんな一歩を踏み出すのでしょうか。その指導法が、茨城県のスポーツ振興、選手の成長を促すことになると期待しています。

《注釈》 DX：デジタル技術に社会に広げ人々の生活を向上させる

ITC：情報通信技術

マインドセット：個人が生まれながらにして持つ性格や受けてきた教育、培ってきた経験などから形成された価値観や先入観・信念・考え方・物事の見方などを示すもの

《講演Ⅱ》「部活動を輝かせる公認スポーツ指導者の役割」

講師 茨城大学人文社会科学部 教授

加藤 敏弘



スポーツの歴史と地域性

ヨーロッパで生まれた近代スポーツは、明治時代に日本に流入しました。当時は帝国大学等へ赴任した外国人教師から伝えられ、スポーツ活動はごく限られたエリートの間で行われていました。スポーツの教育的な意義や役割が認められ徐々に学校教育の一環として普及しましたが、スポーツは優秀を明確にします。スポーツをする人のことを「選手」（選ばれし者）と翻訳した日本では、スポーツは楽しむものというより地域や国の代表としてその優位性を示すものでした。それはちょうど大東亜共栄圏を指す大日本帝国の繁栄と合致し、身を粉にして練習に励む姿が富国強兵と重なりました。

戦後、日本に民主主義をもたらしたGHQは、教育使節団の提言を受け、子どもたちに民主主義を教えるために部活動を設定しました。部活動は子どもたちの自主的な活動と位置づけられ、その精神は今日でも受け継がれています。ところが、もともと地域や祖国のために戦う「選手」というイメージが定着していたことから、その活動は過熱しました。子どもたちの自主・自律と統制の狭間で、部活動は揺れ動き続けます。高度経済成長期には企業戦士として身を粉にして働く素養を身につける場として部活動が一翼を担っていました。学生運動後は、若者たちに無力感を生じさせると同時に規則や規律からの逸脱行動が助長され、中学校や高校が荒れ始めました。すると部活動は生徒指導の道具として使われまし

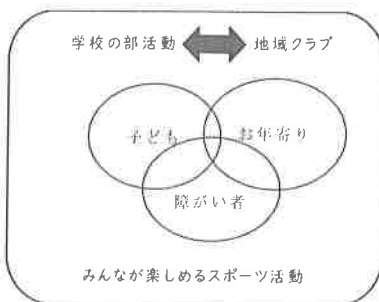


た。現在では少子化が進み厳しい学校経営が続いています。少しでも学校のイメージを良くするために部活動が利用されるようになっていきます。このように戦後の部活動は、スポーツ本来の機能である「脱日常」による「楽しみ」を享受するものからかけ離れてしまい、ついには勝利至上主義から休罰による死亡事故にまで発展してしまいました。ヨーロッパでは、地域のコミュニティを支えるクラブを中心にスポーツは発展してきました。クラブ経営のためには、経済活動と一体となつて発展する必要があります。ヨーロッパやアメリカでは、投資家がスポーツクラブに投資することが、そのステータスを誇示する手段として確立しています。日本では福利厚生生の目的で実業団チームが活躍した時代もありましたが、バブル崩壊後は縮小するばかりです。



おもしろい・見る・見せるスポーツを進めよう

国技である相撲のほか、プロ野球、プロレス、プロボクシングがプロスポーツとして興行を続けてきましたが、現在はJリーグ、Tリーグ、B.LEAGUE、Vリーグ、BAGUE、RUGBY、JAPANESE ONEとプロスポーツリーグが次々と誕生しています。こうした動きは、これまで学校と実業団を中心に発展してきた日本のスポーツが自立に向かって動き出してきた証でしょう。期を同じくして働き方改革の一環として中学校や高等学校の部活動の地域移行が進められています。



講義の後の質問 部活動の地域移行について（人材バンクの登録）

Q 教員はどう関わっていけばよいのでしょうか？ 地域クラブ人材バンク等には、教員も登録するの？

A 兼職兼業をかけて、各市町村で了解をもらえれば可能だが、在校等時間外で、部活動以外で超勤している先生だと兼職をお願いしても認められないケースもあるので、公務員も含めて今後検討していく。

茨城県スポーツ指導者協議会 スポーツ指導者功労賞

受賞者あいさつ



県西支部推薦
八千代町

山中 寛

八千代町ミニバス入会待ってます！

この度、令和5年度茨城県スポーツ指導者協議会の席上において、茨城県スポーツ指導者功労賞を賜りまして、誠にありがとうございました。ご推薦を頂きました茨城県スポーツ指導者協議会並びに、県西支部の皆様方の尽力により感謝申し上げます。令和5年度総会で、会長職を勇退なさる沼会長から賞状をいただき、大変有りがたく又、長い間会長職をなされ色々とお世話になりました。ありがとうございました。

顧みますと、私がスポーツ少年団に関わったのは、昭和57年の八千代町にミニバスケットボールスポーツ少年団設立から、いち指導者として下結城支部の活動に参加してからです。当時の下結城支部は、指導者7名、学校教員3名で、団員は4年生から6年生までで、約40名のチーム構成でしたが、周りの環境の変化で平成の初め頃から教員が指導から手を引き、外部

指導者もいつのまにかチームを去り、私一人になっていました。それから、その時々団員の親に、アシスタントコーチになってもらいながら現在に至ります。平成27年からは、八千代町ミニバスケットボールスポーツ少年団の団長も兼務しています。八千代町も他地区少年団同様に、団員減少に悩まされています。以前は八千代町のスポーツ少年団団員数が700名位いましたが、現在は約300名位まで減少していて、団員の確保に苦労しています。今、他種目少年団長と協議して、団員募集の行事を思案中です。このままだと各小学校に、チーム（支部）がある八千代町も、他地区少年団同様に合併しなければならなくなってしまうと思います。そのような事は出来るだけ避けたいです。下結城支部も現在3年生、5名で活動していますが、正式な大会等に参加できません。何とか団員を増やして参加できるように努力しています。最後になりますが、今後とも皆様方の御指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

会員入会協力への おねがい

会員の皆様、有資格者のお仲間、会員入会をお勧めいただけますよう、ご協力をお願いいたします。



中央支部推薦
ひたちなか市

阿部 総恵

今朝も体育館の中から、元気な子ども達の声が聞こえてきます。バレーボール少年団の指導を始めから、長い年月が経ちました。沢山の子ども達が巣立って行きました。中学へ進んでも、バレーを続ける子。新しい競技を見つけて果敢に挑戦する子さまざまです。**成長していく子ども達へ**

スポーツの面白さや楽しさだけでなく、時には、厳しさもあることを教えられたらどうか。団体競技において、指導者との縦の関わり方や団員同士との横の関わり方も、非常に大切なことを十分に教えられたらどうか。

何をどうやっても上手くいかず、挫折を感じた時、周りの人達の優しさや温かさを感じとることの出来る心を教えられたらどうか。大きな声でおしゃべりをしながら練習をする子ども達。その輪に入れずに隅っこに立ってみている子どもも、近くにいた子どもに、「仲間に入れてあげて」と、そっと耳打ちをします。立って見ていた子どもは、声をかけられ嬉しそうに笑顔で仲間入りが出来ました。

練習の合間の給水時間

一斉に水筒の水を飲みに行きます。氷の入った冷たい水の子やスポーツドリンクの子も、汗をかい

た時の水分補給には、水と少量の塩分や糖分も必要になります。

「水は一気に飲まずに、少しずつ、ゆっくり飲んでね」と声をかけます。この時、常備の塩飴を配ります。子ども達は、飴に大喜び後半も元気に声を出しての練習が出来ればとの願いです。

運動時の注意点や指導者としての子ども達との関わり方、非常時に如何に冷静に対処する事が出来るか等の幅広い知識の習得は、多く研修会に参加しての積み重ねにより培われたと思います。

新しい情報を取り入れよう！

指導者は、技術の伝達だけではなく、常に新しい様々な情報を取り入れ、子ども達に幅広い情報の提供をしていく姿勢が大切かと思われまます。

これからも積極的に、様々な研修会に参加し、情報交換等しながら知識の幅を広げたいと思います。

最後になりましたが、この度スポーツ指導者としての、長年の普及・振興への

関わりが評価され、表彰状を頂きました。今後とも尚一層の精進を重ね、指導者としての幅を広げて行きたいと思



受賞者紹介

県南支部推薦

石岡市 大久保 進司

公財

茨城県スポーツ協会
加盟競技団体紹介茨城県ソフトテニス連盟
理事長

額賀 富雄

ソフトテニスの事業活動について

茨城県ソフトテニス連盟役員は下妻利之会長を筆頭に36名で構成されており、ソフトテニスの普及振興を図り、茨城国体が無事終えて少年種別・成年種別の新たな競技力および体制を確立し、ソフトテニスの競技力向上事業について推進しております。

更に、「来た時よりも美しく」、「ありがとう あなたの笑顔とそのマナー」を柱に、茨城県のソフトテニス愛好者が「ONE THE AM」となり生涯スポーツ推進に向け、ソフトテニス競技人口を現状の全国10位以上を継続するよう展開しているところです。

中学校部活動の地域移行について

中学校部活動に於いても本年から新規団体が正式に日本ソフトテニス連盟に加入しました。特に、中学総体の男子では団体戦を「アース」北茨城市団体が優勝し、第3位に「土浦STC」土浦市団体が関東中学生ソフトテニス大会へ茨城県代表として出場しました。少子化による部員減少を抱える中学校にソフトテニス部が無い等の中学生でも地域で仲間と楽しめる場が広がって行くと感じております。今後は、コーチやスタートコーチ資格の認定に対して指導者の確保・資質向上に向けて茨城県ソフトテニス連盟としてバックアップしていきたいと思っております。

大会運営について

大会会場は磯原地区運動公園テニスコートを中心に5地区で開催をして茨城県全域のソフトテニス愛好者である会員が多数参加できる様、展開しております。

特に、関東オープン大会は神栖海浜公園庭球場を固定開催として約300名のソフトテニス愛好者が年度初めの大会でのチャンピオンを目指して参加し腕前を競っています。最高年齢種別は75歳以上で形成しているシニア男子75となります。ソフトテニス競技は生涯スポーツと言われる由縁であります。

県加盟団体の紹介

県連組織には、レディース連盟 石井啓子会長、シニア連盟小野澤雅彦会長、高体連委員長の豊田裕樹先生、中体連委員長の北村達則先生、小学生連盟の関山達朗会長と組織間の連携をスムーズに行い今後のソフトテニス競技の発展に努めていきます。



みんなの広場

● 県西地区（下妻市）

鈴木 伸一

私は、現在下妻市のスマイルスポーツ少年団で子供たちにバレーボール指導をしています。

スマイルキッズスポーツ少年団では、バレーボールを通して、スポーツの楽しさを知り、丈夫な身体と豊かな心を養い、礼儀、協調性、自立性を身に付け、また、団

体行動の中から助け合う思いやりの心を学んでもらいたいと指導者・保護者が一丸となって子ども達をサポートしています。

顧みますと、私は、中学・高校の部活動で、そして社会人で数年バレーボールに打ち込んでいましたが、二十代半ばから五十歳を過ぎるまでバレーボールから完全に離れていました。

しかし、スマイルキッズでのバレーボールの指導を手伝って欲しいと言われ、スポーツ少年団での指導者の道を歩み始めることになりました。初めは、お手伝いの気持ちで携わりましたが、子ども達が真剣に練習に取り組む姿、そして、日に見えて上達していく子ども達に感動を覚え、この世界にすっかり魅了されてしまったのです。

私は、指導者としては、まだ十年の若輩ものですが、諸先輩の方からの助言を参考にし、そして、良き先輩指導者を見習い、日々、勉強する気持ちを大切にして指導にあたっています。この十年間、様々な方のお陰で、子ども達と共に成長して来られたのかなと思っています。

そんな甲斐もあって、一昨年の夏は、二年ぶり二回目となる全日本バレーボール小学生大会に出場することができました。この大会

協議会事務局便り

本協議会事務局便りは、会員皆様へ新しい情報を事前に発信いたします。

令和5年度茨城県スポーツ指導者研修会のお知らせ

(1)全県研修会

日 時 令和5年8月6日(日)に実施しました。
会 場 水戸市・水戸市民会館
参加者 94名参加で終了しました。

(2)中央地区研修会

日 時 令和5年9月3日(日)に実施しました。
会 場 那珂市・総合センターらぼーる
参加者 79名参加で終了しました。

(3)県西地区研修会

日 時 令和5年11月12日(日)
会 場 下妻市・千代川公民館
申込者 令和5年10月29日(日)まで参加申込み受付中

(4)鹿行地区研修会

日 時 令和6年1月21日(日)
会 場 鉾田市・大洋公民館
申込者 令和6年1月7日(日)まで参加申込み受付中

※令和5年度研修会(全県研修会・地区研修会)の参加申込みから、ハガキ案内状のQRコードを読み取り、(公財)茨城県スポーツ協会へアクセスする方法へと変更になりました。

6支部市町村別の会員人数ご紹介(9月1日現在)

市町村	会 員	市町村	会 員
(1)県北支部 5市町村			
常陸太田市	27名	北茨城市	15名
日立市	111名	水戸市	1名
高萩市	14名	合計	170名
(2)水戸支部 1市			
水戸市	170名	合計	170名
(3)中央支部 11市町村			
ひたちなか市	126名	大洗町	3名
笠間市	34名	城里町	6名
那珂市	47名	太子町	7名
小美玉市	44名	東海村	48名
常陸大宮市	22名	水戸市	3名
茨城町	18名	合計	358名
(4)鹿行支部 5市			
行方市	22名	潮来市	3名
鹿嶋市	38名	鉾田市	35名
神栖市	45名	合計	143名
(5)県南支部 14市町村			
つくば市	172名	かすみがうら市	29名
つくばみらい市	23名	稲敷市	21名
牛久市	41名	阿見町	39名
取手市	61名	利根町	12名
守谷市	38名	河内町	4名
石岡市	103名	美浦村	7名
土浦市	83名	合計	636名
龍ヶ崎市	41名		
(6)県西支部 10市町			
古河市	47名	結城市	29名
下妻市	24名	八千代町	13名
坂東市	21名	境 町	13名
常総市	21名	五霞町	2名
桜川市	39名		
筑西市	59名	合計	268名

は、小学生バレーボールが目指す最も大きな大会で、素晴らしい夢の舞台です。子ども達は、この夢の舞台で素晴らしい経験をするとともに、全国ベスト8という成績を残すことができました。この結果は子ども達の日々の弛まぬ努力があったことはもちろんですが、子ども達・指導者・保護者が一体となり掴み取った栄光です。またこのような経験は、一つのことに真剣に向き合い、日々鍛錬している者のみが味わえる喜びなのかもしれません。

指導者として何よりも嬉しいことで、本当にかけがえのない経験をさせてもらっていると思います。未来ある子ども達の可能性を広げ、明るく・楽しく・仲良く・元気にいっばいに活動する子ども達が再び全国大会という素晴らしい夢の舞台を経験できるように、指導者として初心を忘れず、これからも一歩一歩目標に向かって全力で指導に当たっていきたく思います。そして、これからも地域の中で楽しくスポーツができる環境づくりに携わっていただけたらと思っています。

編集後記

第八十七号会報発行に当たり皆様へ原稿執筆を賜り心から感謝申し上げます。
ご愛読いただける会報となるよう努力してまいりますので、皆様の忌憚のないご意見をお寄せ頂きたいと思っています。
今回の会報八十八号発行は
令和六年三月十五日(予定)

みなさん

ホームページ
をもっと活用
しましょう！



広報委員会

広報委員長 高野 照代(鹿行支部)	広報副委員長 君和田治也(鹿行支部)	広報担当副会長 梅村 恒雄(県北支部)	広報委員 高松 淑子(県北支部)	岡野 秀一(水戸支部)	舩井 幸子(水戸支部)	大曾根瑞穂(中央支部)	黒沢 勝秀(中央支部)	小林 誠(県南支部)	藤田 道子(県南支部)	大竹 幹夫(県西支部)
----------------------	-----------------------	------------------------	---------------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------